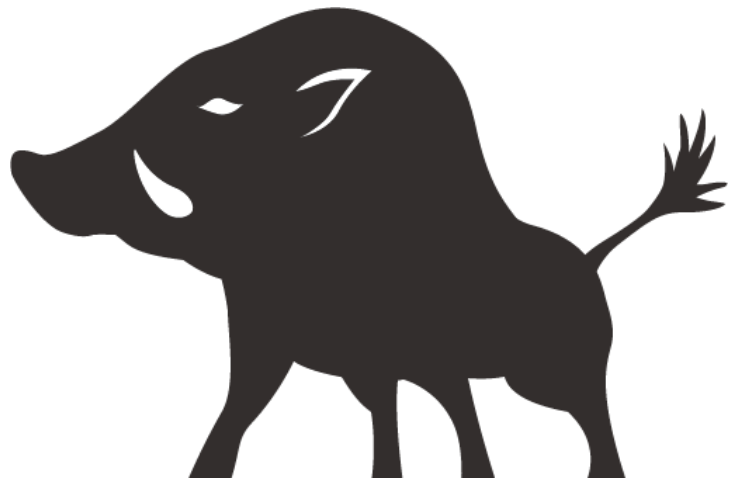




八雲町社協だより

ともに支え合う、安心・安全・福祉のまちづくりを目指して

迎春



年頭のご挨拶

八雲町社会福祉協議会

会長 秋松 等

新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、輝かしい新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。また、日頃より、八雲町社会福祉協議会の活動に多大なご支援、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、近年の社会情勢や胆振東部地震をはじめとする自然災害などにより、人と人とのつながりや、地域社会での支え合い、「我が事・丸ごと―地域共生社会」を実現することが大切になってきています。

このことは同時に、様々な地域福祉・在宅福祉活動の取り組みやボランティア団体の育成支援、さらには、介護保険事業を運営していく社会福祉協議会の役割や活動が、これまで以上に求められていることでもあると考えています。

そのような中、八雲町社会福祉協議会では、平成三十年からの五カ年計画である「新三期地域福祉実践計画」に基づき、「ともに支え合う、安心・安全・福祉のまちづくり」を基本理念として、各種の事業に取り組んでおります。

本年も、皆様をはじめ、町・福祉関係団体などの連携・協働をしっかりと図りながら、だれもが住み慣れたところで安心して暮らすことができる地域づくりのため、役員一同さらなる努力を続けてまいりますので、一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。まして新年のご挨拶とさせていただきます。

第7回八雲町社会福祉大会



記念講演

『多様性が人びとをつなぐ
～地域共生社会への挑戦と課題～』



平成三十年十二月九日(日) 第七回八雲町社会福祉大会がシルバープラザに於いて開催されました。

はじめに、社会福祉関係物故者へ黙とうが捧げられ、秋松会長より、誰もが安心して住み続けることができる福祉のまちづくりのためには、町・福祉関係団体そして地域の連携・協働による取り組みが求められ、一層の推進を共に考えて行きましようとして式辞が述べられました。

表彰式では、社会福祉に功績があった十一名の方に対し表彰・感謝状が授与され、受賞者を代表し林富美子氏より、沢山の方にお祝いの言葉を賜りましたが、ただただ恐縮しております、微力ながら地域福祉のより良い進展のためこれからも努力しますとお礼の言葉がありました。

続いて「八雲・熊石地域生活支援体制整備事業」について、事業内容の説明と現在のサロン・カフェづくりの取組状況について、八雲地域生活支援コーディネーター奥田文恵氏、熊石地域生活支援コーディネーター遠谷和正氏より報告がありました。

記念講演では、『多様性が人びとをつなぐ地域共生社会への挑戦と課題』と題し、北海道教育大学教育学部(函館校) 国際地域学科 地域協働専攻 地域政策グループ 准教授 齋藤征人氏にご講演いただきました。

今後高齢者を支える人が減少する。これからは、個人の困りごとは、家族内で対応され、家族内で対応できないものは、地域でやりくり、対応をするという考え方になってきた。

よく年配の方に相談された時に、子どもさんはいますかと、聞いていた自分がいたが、それは違っていた。こんなことを子どもに頼んだら、子どもに迷惑がかかるから頼めないと言われた。自分の考えが間違っていたと笑いを交えながら楽しい講演となりました。

最後に、八雲町民生委員協議会会長能代常男様より大会宣言が行われ、住み慣れた地域で暮らしていく私たちの思いやりと心の伝わる「やさしい未来」をいつまでも育んでいくため次のことが宣言され、大会を終りました。

- 一 共に手をつなぎ支え合う地域づくりの推進に努めます
- 一 いきいき暮らす健康・生きがい活動の推進に努めます
- 一 住民のつくりによる福祉で地域づくりの推進に努めます



表彰おめでとございます。

社会福祉事業功労者に対して功績を讃え、表彰状を送り感謝の意をあらわしました。

また、北海道社会福祉協議会会長表彰の伝達も行いました。ここにご芳名を掲げて、心からの敬意を表します。

【八雲町社会福祉協議会会長表彰】
☆ 福祉団体の役員として永年勤め、その功績顕著なもの

- 能代 常男(立岩)
- 牧 由紀美(熊石折戸町)
- 林 玲子(熊石館平町)
- 斉藤 国子(熊石根崎町)
- 平井 信子(熊石西浜町)
- 干場 たまみ(熊石平町)
- 山田 由紀子(熊石雲石町)
- 林 富美子(東雲町)

☆ ボランティア団体の役員として永年勤め、その功績顕著なもの

- 糸谷 まさ子(宮園町)

【感謝状の贈呈】
☆ 愛情銀行に多額の金品を寄贈し、本会の福祉事業に寄与したもの

- 津軽三味線杉本流
- 代表 杉本 雅人(春日)

【伝達】
☆ 北海道社会福祉協議会会長表彰

- 小西 寿美子(東雲町)

【敬称略、順不同】



平成30年度 八雲町社会福祉協議会役職員先進地視察研修

今年度の研修は、災害対応をテーマとして2年前発生した台風10号により、空知川の堤防2ヶ所が決壊したことで、甚大な浸水被害となり、災害ボランティアセンターを設置した南富良野町社会福祉協議会を研修先といたしました。

災害ボランティアセンターを開設して一番大変だったことは、被災した方のニーズとボランティアをつなげるマッチングと言われる作業で、沢山のボランティアが駆けつけてくれたが、マッチング作業がうまくいかず、ボランティアから苦情が出たり、土地勘がなく被災場所を説明する人が必要だったこと、また車で来られる方が多く駐車場の確保が大変だったことなど。そんな中、被災者への炊き出しはあたたかく心休まる時間ですが、ボランティアに対する炊き出しも行われ、あたたかいおいしい食事と笑顔は、みんなのパワーの源となったと話されていました。

翌日には、千歳市にある北海道防災学習センターを施設見学し、地震体験装置で実際に起きた地震の揺れや、火災が発生した場合の煙から逃げる体験をしました。

常日頃からの確認、備えが重要だということを改めて実感し、そして社会福祉協議会でもできること課題を整理し、体制づくりに取り組もうと研修を終えました。



平成30年度渡島管内社会福祉協議会役職員セミナー

平成30年11月28日（水）に平成30年度渡島管内社会福祉協議会役職員セミナーが七飯町で開催されました。

講師には、北海道社会福祉協議会地域福祉課長の町田真俊氏より「社会福祉法人の地域における公益的な取組について」講演がありました。

社会福祉法の改正により、社会福祉法人は地域福祉づくりを推進する中で、日常・社会生活上支援が必要とする方へ、無償等による福祉サービスの提供と地域の特性を活かした多様なサービス等が求められていると話されていました。

つづいて、「地域包括ケアシステム構築への取組～ふれあい食堂いこい（地域食堂）の開設～」と題し、講師は社会福祉法人函館緑花会特別養護老人ホーム美ヶ丘敬楽荘総務課長の堀久志氏より実践報告がありました。

2025年問題と言われている超高齢社会に対応するため、アンケート調査を実施し、その結果「交流の場・楽しく集まれて、コミュニケーションが取れる場所」「健康づくり等の取組み」等参加と活動ができる場所が必要だとわかり、「ふれあい食堂いこい」を開設されました。

これをきっかけに『自分たちの地域は自分たちで住みやすくする』を実現する拠点となるよう意欲を見せていました。



じぶんの町を良くするしくみ。

赤い羽根共同募金

赤い羽根共同募金運動が10月1日から始まり、町民皆様から善意の募金が集まってきておりますので、11月30日現在の途中経過をご報告いたします。

赤い羽根共同募金の実績（11月30日現在）

実績額 3,614,812円（目標額 3,600,000円）

内訳	戸別募金	1,507,220円	大口募金	1,225,100円
	街頭募金	249,163円	その他	633,329円



ボランティア愛ランド北海道2018inおたる開催!!

No.52

ボラ通



平成30年10月21日(日)に小樽市にてボランティア愛ランド2018が開催されました。

全道からボランティア関係者、またボランティアに関心のある

方などが一堂に会し、課題における研究協議、また仲間づくりやネットワーク強化、活動の推進を図ることを目的として毎年開催され、八雲町からは18名が参加いたしました。



『途上国から世界に通用するブランドをつくるわたしの挑戦』をテーマに山口絵里子さんの講演をはじめ、3つの分科会に分かれ『ボランティア活動で伝えたいこと』では小樽市内の児童がボランティアを通じて学んだことを発表し、『人づくり・まちづくり・ボランティア...明日を拓く』では実際体験した、災害ボランティア活動の緊迫

した現場のお話を聞き、また『もっと素敵にレクリエーション』ではどこでも楽しくできるレクリエーションを学ぶことができました。

次の日22日(月)には、北海道小樽高等支援学校を見学させていただきました。こちらの学校は『豊かな心を持ち、力を合わせて、生き生きと活動する生徒を育てる』も目標としており、国語や社会などの一般教養はもちろんのこと、木工やガラス加工、園芸、清掃、またパンの販売などと幅広く行っており、地域の方々との交流、また協力し合いながら成長されている生徒さんのお話などを聞くことができました。寮が完備されており、掃除なども生徒が行っており、整理整頓もしっかりされ、心身ともに成長できる学校を見学した私たちは関心と驚きがたくさんありました。



平成30年11月12日(月)毎年恒例の八雲ボランティアが中心となって行われている、黒松内町の緑ヶ丘老人ホーム、緑ヶ丘ハイツの2ヶ所への施設慰問に今年も同行させていただきました。

八雲ボランティアの他に八雲民謡会、松の会舞踊サークル、フラサークルと多数参加し、普段の練習の成果を発揮、唄に踊りにと披露していました。利用者の方々も毎年温かく迎えていただいて、慰問しているボランティアの方々が逆に元気をもらい、一緒に楽しい時間を過ごすことができ、利用者から「また来て」と暖かいお言葉をいただきました。このような活動をこれからも八雲町内に限らず、幅広く活動を続けていきたいと思ひます。

平成三十年度 黒松内町施設慰問



十月

- ・八雲町社会福祉協議会職員研修会
- ・平成三十年度北海道介護支援専門員更新研修 函館市
- ・第2四半期定期監事監査
- ・平成三十年度北海道地域生活支援センター関係職員研修会 渡島合同庁舎
- ・ボランティア愛ランド北海道2018 inおたる 小樽市

- ・熊石身体障害者福祉協会「秋季の集い」
- ・八雲保健所精神保健福祉関係職員研修
- ・平成三十年度社会福祉協議会活動ブロック会議 札幌市

- ・第五回渡島噴火湾社会福祉協議会連絡会議
- ・八雲町共同募金委員会第一回審査委員会
- 十一月
- ・八雲町社会福祉協議会役員先進地視察研修 南富良野町

- ・八雲町介護保険事業所合同説明会に係る打合せ会議
- ・平成三十年度渡島地域災害ボランティア組織連絡会議 渡島合同庁舎
- ・八雲ボランティア黒松内福祉施設慰問 黒松内町
- ・八雲保健所自殺対策連絡会議
- ・テオーケアサービス開設十五周年記念講演会 函館市

- ・介護認定審査会委員現任研修
- ・平成三十年度全道市町村社協事務局長会議 札幌市
- ・厚生園八雲会「新そばまつり」
- ・グリーン・ツーリズム事業「Yakumovillage」ゲストハウスSENTO地場産レストランSENTO・農産物作業所開設セレモニー
- ・第四回理事会

- ・熊石関内町安心安全ふれあいサロンの会
- ・2018じゃわめぐ津軽！北の大地に津軽のかまきり
- ・ソシヤルクリニク「巡回型サテライト・オフィス」
- ・北海道新幹線新八雲（仮称）駅周辺整備基本計画及び八雲町立地適正化計画策定検討会議
- ・法テラス函館地方協議会（八雲ブロック）



皆さんの善意のご寄付ありがとうございました

ボランティアセンター（愛情銀行）

平成30年10月16日～平成30年12月15日（順不同・敬称略）

一般寄付

- ・(有)第一清掃 12,156円(昭和54年度より継続)
- ・津軽三味線杉本流 35,000円(平成26年度より継続)
- ・はまなすクラブ 5,280円(平成22年度より継続)

物資寄付

- ・八雲町老人クラブ連合会婦人部(平成20年度より継続) 石鹸20個、タオル123枚、雑巾24枚、洗剤5個
- ・北海道コカ・コーラボトリング株式会社 営業統括本部 第二本部 フルサービス営業三部 函館販売課(昭和59年度より継続) 飲料水34箱
- ・八雲ボランティア(平成10年度より継続) タオル50枚

- ・渡島管内社会福祉協議会連絡協議会臨時役員会・平成三十年度渡島管内社会福祉協議会役員セミナー
- ・障がい者虐待防止・権利擁護研修 七飯町 函館市
- 十二月
- ・八雲ライオンズクラブ「クリスマス家族会」
- ・指定障害者福祉サービス事業等集団指導 渡島合同庁舎 渡島合同庁舎
- ・介護保険施設等集団指導
- ・八雲町社会福祉協議会職員研修会
- ・生活支援体制整備事業に係る協議会
- ・第一回八雲町民生委員協議会定例会
- ・平成三十年度渡島管内社協職員連絡協議会研修会 函館市
- ・第七回八雲町社会福祉大会



北海道コカ・コーラボトリング株式会社様より、地域貢献活動の一環で、八雲社協本所、熊石支所へ合わせて飲料水34箱(806本)の寄贈がありました。

当社協から八雲町の各福祉施設へ、クリスマスプレゼントとして配付させていただきました。ありがとうございました。



会報五十二号
 平成三十一年一月一日発行
 二海郡八雲町栄町十三一
 社会福祉法人 八雲町社会福祉協議会

八雲町社協だより

FAX ☎
 0137-6364-2112
 0137-6364-2110